

報告書

研究課題 : (公 A02) 重力変化による自律神経系の可塑
: 前庭系-延髄 C1 神経細胞連関へのアプローチ
招聘者 : 安部 力 岐阜大学大学院医学系研究科 准教授
招聘先 : 東京大学、岐阜大学
招聘期間 : 2019年9月15日～9月21日
招聘研究者 : Mark D. Okusa 氏 (Professor / Chief, University of Virginia, Division of Nephrology & Director, Center for Immunity, Inflammation and Regenerative Medicine)

新学術領域「宇宙に生きる」国際活動支援班の共同研究先であるバージニア大学の Mark D. Okusa 先生を招聘し、国際共同研究の打合せに加えて、講演を依頼させていただきました。

申請者グループ、Mark 先生グループ、森田先生グループおよび井上剛先生グループで行ってきた国際共同研究がいかに実を結んでいるのか、また共同研究を行う重要性を講演の中で伝えていただきました。非常に短い時間の中、各講演で違う内容のトピックスを提供してくださった Mark 先生に改めて感謝を申し上げたいと思います。



左から安部（筆者）、井上先生、Mark 先生、森田先生

また、第 92 回日本生化学会シンポジウム（オーガナイザー：井上剛先生（東京大学）と神吉康晴先生（東京大学））では、「Immunoregulatory Role of Tissue Microenvironment in Kidney Injury」というタイトルで、腎障害における免疫細胞の役割を分子レベルでお話ししてくださいました。また、東京大学と岐阜大学では、腎臓と他臓器（脾臓や脳）との連関を中心に、腎障害保護における神経性および液性のシグナル伝達の重要性について詳しく解説していただきました。

今回の招聘を通じて、国際交流を通じて行う共同研究の重要性を改めて認識することができました。このような交流が、これからの宇宙研究を含む様々な研究の発展につながればと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。